

学習の流れの例

- ① p.32 洪水ハザードマップ 二次元コード で使い住んでいる地域を確認し、「ハザードマップをチェック」に記入する。
- ② マイタイムラインについて知る。(風水害は安全なうちに避難ができることを再確認する。)
- ③ p.32-33 の警戒レベルの表とハザードマップを参考にマイタイムラインを作成する。

学習後の生徒の姿

ハザードマップや警戒レベルをもとに、安全に避難できるように見通しを持って避難計画を検討している。

このページの

指導案 ワークシート

はコチラから!

指導のポイント

マイ・タイムラインとは、住民一人ひとりの防災行動計画であり、台風などの接近による大雨によって河川の水位が上昇する時に、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。ワークシートを用いて学習する。

参照：国土交通省「マイ・タイムライン」津波の恐ろしさをアナウンサーが体験

市町村から避難情報が出ていない場合でも、防災気象情報を参考にしながら、適切な避難行動をとれるようにする。いざというとき、安全に避難行動がとれるよう、普段から自分が住む地域の災害リスクや避難場所、安全な避難経路などを確認しておく。

参照：厚生労働省「避難所生活で健康に過ごすため、以下の点にご注意ください」

●ハザードマップをチェックしよう

「ハザードマップ」とは

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

参照：国土交通省 国土地理院「ハザードマップ」

1. 住んでいる場所が想定区域に当てはまる場合は □ (四角) に ✓ (チェック) を入れる。
2. 住んでいる場所に洪水の危険性がある場合は 川の名前と想定最大規模の浸水深を記入する

●警戒レベル

家の外にいる場合、むやみに帰宅や移動せずに近くの安全な場所へとどまる。警戒レベルが高くなるほど避難が難しくなるので、早い段階での避難を心がける。

(以下のサイトには、「正常性バイアス」や「同調性バイアス」に陥っていることがわかる被災者の証言が書かれている。)

参照：広島県「私たちはなぜうまく避難できないのだろう」

マイ・タイムラインを作る

風水害などの避難行動計画を「マイ・タイムライン」といいます。事前に計画を立てておくことで、より安全に避難ができます。

めあて ハザードマップの見方や警戒レベルを知り、避難計画を立てる。

ハザードマップをチェックしよう

自分が住んでいる地域は?

- 洪水浸水想定区域である (大量の水があふれ出し、水浸しになりそうな区域)
- 土砂災害警戒区域である (大雨警報が発表されているとき、がけ崩れなどの災害がいつ起こってもおかしくない区域)

住んでいる場所の浸水深は?

(想定最大規模) 例: 鶴見川、3~5m
[_____ 川、 _____ m]



▲洪水ハザードマップ
自宅が浸水域かどうかと浸水深を調べられます。

警戒レベル	1 災害への心構えを高める	2 自らの避難行動の確認	3 危険な場所から高齢者等は避難	4 危険な場所から全員避難	5 命の危険 ただちに安全確保
行政からの情報等		自主避難などの注意の呼びかけ	高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保
警戒レベル相当情報 気象庁 防災気象情報を発表	早期注意情報	大雨注意報・洪水注意報 等	氾濫警戒情報 大雨警報・洪水警報 等	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等	大雨特別警報 等
避難行動のめやす	<input type="checkbox"/> 天気予報を確認 <input type="checkbox"/> 家の点検・補強 <input type="checkbox"/> 非常持ち出し品や備蓄品の確認 <input type="checkbox"/> 停電に備えた懐中電灯や水など	<input type="checkbox"/> 備蓄品などが水浸しないように安全な場所に置く <input type="checkbox"/> 高齢者や障がいのある人、小さな兄弟姉妹、ペットがいたら家族と話して避難方法を決める	<input type="checkbox"/> 避難場所・開設状況の確認 (市区町村のHPや防災情報Eメール) <input type="checkbox"/> 避難の準備 <input type="checkbox"/> 高齢者や障がいのある人など、避難に時間を要する人は避難開始	<input type="checkbox"/> 避難開始 避難指示が出たら、危険な場所から全員避難 ※避難場所などに避難しない場合にも、家の2階など安全な場所に避難しよう。	命を守るベストな行動をとる
私の避難行動計画 自分の家の周りの危険な場所や、家族のことを考えてどうしたらよいか考えてみよう。	他にやることを書き出そう	他にやることを書き出そう	他にやることを書き出そう	他にやることを書き出そう	屋内の安全な場所への避難

●洪水ハザードマップ

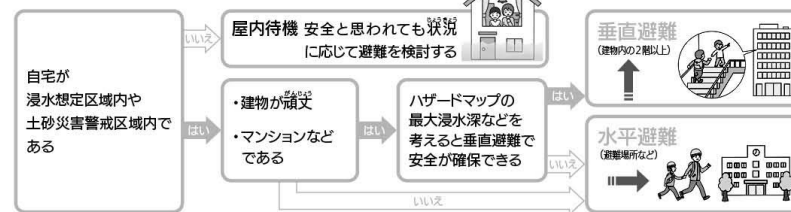
洪水ハザードマップで自分が住んでいる地域の確認をし、マイ・タイムラインの作成に役立てる。マップ上でぎりぎり想定区域でなかった場合も、「もしかしたら想定を超えるかもしれない」という気持ちで計画を立てる。

① 風水害で避難するときの注意

冠水した場所は通らない
水が膝の高さを超えると、歩くことがむずかしくなる。
足元を確認しながら慎重に
ふたの外れたマンホールや側溝などに注意。傘などで足元を確かめよう



とるべき避難行動を考えよう



登校前

午前6時の段階で横浜市内に「学校が指定した風水害の警報」が発表される。避難中の場合は休校となる。



●アンダーパス

アンダーパスに注意 周りに比べて低い場所は、短時間で急激に水が流れこんだり、増水したりして危険です。冠水しやすいアンダーパスでは、車が浸水してエンジンが止まったり、水圧でドアが開かなくなったりするおそれがあります。

●アンダーパス

主に市街地では、前後区間と比べて急激に道路の高さが低くなっている区間が多数あり、この区間を「アンダーパス」と呼んでいて、全国では約3,700カ所(R4.3末時点)が存在します。特にアンダーパスに設置した排水ポンプの能力を超える大雨となった場合、アンダーパスに水がたまってしまいます。そこで、排水能力を超える雨が降った場合に、アンダーパス部の冠水による事前通行規制の実施と道路利用者への情報提供を行っています。

参照：国土交通省～道路における豪雨対策～

指導のポイント

避難の判断によって、生死が分かれる場合があるということを知っておく。避難するかしないかは人任せにせず、ラジオ・テレビや行政などからの情報、自分の感覚などで確かめた情報をもとにして判断することが大切。

参照：交通省「水災害からの避難訓練ガイドブック」

●とるべき避難行動を考えよう

「垂直避難」

急激な降雨や浸水により屋外での歩行などが危険な状態になった場合は、自宅や隣接建物の2階などへ緊急的に一時避難し、救助を待つことも選択肢として考えられるべきである。

参照：内閣府防災情報～避難に関する国の指導等

「水平避難」

その場を立ち退いて近隣の安全を確保できる場所に一時的に移動することをさす。

参照：国土交通省～避難勧告等の判断・伝達マニュアル作成ガイドライン(平成26年9月、内閣府)

●登校前

学校で登校に関する決まり事があれば確認しておく。